

光と緑の風通信

発行/2007年10月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL024-547-1111(代)

看護学部開設 10周年記念行事開催

記念講演会・シンポジウム

『看護職のキャリアデザインを考える』

平成 19年 6月 9日 (土) 福島県立医科大学講堂

- ・ 開催にあたって
- ・ 記念講演
- ・ シンポジウム

記念講演：住吉蝶子先生

(社団法人東京慈恵会総合医学教育研究センター医療教育研究部 客員教授)

シンポジウム：■ 座長

中山洋子先生 (本学 学部長)

■ シンポジスト

北原和子氏

(福島県立医科大学附属病院副院長 兼 看護部長)

大畑裕子氏、佐藤梢氏、赤間由美氏 (以上本学卒業生)



管理者の立場から教育、 キャリア支援について



看護部長

北原 和子

看護職の場合、専門の基本教育を経たさまざまな現場経験と継続教育によってキャリアを積み重ねていくというイメージがありますが、個人のキャリアニーズと組織が求めるニーズは必ずしも一致するとは限りません。したがって看護管

理職の場合、専門の基本教育を経たさまざまな現場経験と継続教育によってキャリアを積み重ねていくというイメージがありますが、個人のキャリアニーズと組織が求めるニーズは必ずしも一致するとは限りません。したがって看護管

福島県立医科大学看護学部開設 10周年記念行事を開催して



看護学部同窓会会長 (開催当時)

坂内 成子

福島県立医科大学看護学部は今年開設10周年を迎えました。これまでに本学にご支援いただいた方々への感謝の気持ちを込め、このたび同窓会主催の開設10周年記念行事を開催するに至りました。準備期間が短かったこと

もあり開催間際までアクシデントもありましたが、忙しい仕事の合間に駆けつけた同窓生有志の力でこの日を迎えることができました。本学は卒業生も520余名となり、大学院も開設されました。卒業後に首都圏で働いていた同窓生の中には福島へ戻ってくる人・大学院へ進学する人・今年にあたっては教育者として学部へ戻ってくる人もおり開設10周年という節目を改めて感じています。そして、その節目にふさわしく記念行事のテーマは「看護職のキャリアデザインを考える」としました。同テーマに基づき住吉先生の基調講演をいただき、附属病院看

る職は看護師が病院(組織)の方針や役割機能を認識でき、「目標」と「やりがい」を持って看護の専門職としてキャリア形成ができるような支援を考えています。そこで附属病院看護部では看護師のキャリア形成を図るために、①教育プログラムの構築、②ローテーション・仕事の場の提供、③目標管理・能力評価(目標面接・育成面接)、④リソースの活用、⑤役割モデルの育成などのしくみをつくっています。また、必須のプログラムと個々の成長や興味関心に合わせたキャリア支援を行っています。そのため、どのようなキャリア形成ができ、成長できるかが分かりやすく魅力的に提示することも必要

と考えます。支援方法としては、たとえば、看護職のキャリアビジョンとライフビジョンの5年、10年後を描き、ジェネラリストまたはスペシャリストのどちらを目指すかなどを提案していただきます。しかし、日々の業務や面接の中で、役割課題や責任を持たせること、そのために、その結果や評価のフィードバックを行い、その中で承認、動機付けを行うことが個人の成長を促す上で重要なポイントになると考えます。看護職のキャリア志向が高まる中、管理者と看護職員双方が医療の変化に合わせて、個人と組織の融合をどう図ればよいか意識変革しながら、効果的にキャリア形成のシステムを活用していきたいと思えます。(きたはらかずこ)

と考えます。支援方法としては、たとえば、看護職のキャリアビジョンとライフビジョンの5年、10年後を描き、ジェネラリストまたはスペシャリストのどちらを目指すかなどを提案していただきます。しかし、日々の業務や面接の中で、役割課題や責任を持たせること、そのために、その結果や評価のフィードバックを行い、その中で承認、動機付けを行うことが個人の成長を促す上で重要なポイントになると考えます。看護職のキャリア志向が高まる中、管理者と看護職員双方が医療の変化に合わせて、個人と組織の融合をどう図ればよいか意識変革しながら、効果的にキャリア形成のシステムを活用していきたいと思えます。(きたはらかずこ)

最後に今回の記念行事に当たってご支援頂いた多くの方々に感謝いたします。(ばんない せいこ)

…卒業生の…

近況報告



働きはじめて 感じること

福島市健康推進課地域
保健グループ 保健師
菅原 祐子



私が大学を卒業し、就職してからもなく半年が経とうとしています。職場の雰囲気には慣れましたが、住民の方々と接するときは、いまだに緊張します。私の所属している地域保健グループは保健師が地区担当制をとって働いています。業務内容は乳幼児健診やその事後フォロー、育児相談・健康教育などの母子事業や、市民検診と事後フォロー、健康づくりサークルでの健康教育といった成人事業など、とても幅広いです。先輩方に助けてもらっているとはいえ、一つの地区を任されている、という責任を日々感じています。

働きはじめて感じていることは、責任の重さだけではありません。日々自分の知識の無さを痛感しています。もちろん大学で勉強したことが基本であり、現場で役に立つことはたくさんあります。しかし、住民の悩みを解決できるような知識・関わりや、日々変化していく法律・条例などまだまだ勉強不足です。

職場の先輩方は働きながら大学に通ったり、自主的な研修会を設けて勉強したり、学会へ出席したりと積極的に勉強しています。私も先輩方を見習い、これからも勉強することを怠らずに、よりよいサービスを提供できるように保健師になりたいです。(すがわら ゆうこ)



看護師としての 4ヶ月

総合南東北病院
脳神経外科看護師
小坂橋 優美



近況報告

東京慈恵会医科大学
附属病院看護師
鈴木 紀子



私は今、東京の病院の手術室で勤務しています。手術室は、何種類もある手術の種類に、それに応じた様々な種類の器械を出すということが特徴です。今は器械出しを徐々に一人で行い、手術は先輩とともに入っています。病棟と違って患者さんの多くは麻酔で意識がありません。でも、手術室の看護として患者さんの観察、対応は求められます。今はまた技術、業務を覚えることで必死ですが、患者さんが安心して手術を受けられる看護を目指しています。

まだ思うようにいかないこともあり、落ち込むこともたくさんありますが、そういう時に支えになってく

私は現在、総合南東北病院の脳神経外科で働いています。配属先となつた脳神経外科は、大学4年生の課題別実習で1ヶ月実習した病院です。この実習を通して脳外に興味をもつようになり希望していた領域だったので、配属先が発表された時はとても嬉しかったです。

看護師として働くようになってから4ヶ月が経過しました。最初は見るものすべてが新鮮で、日々緊張して過していました。また技術に関しては何もできない自分に慣れを感じては毎日でした。最近になってやっと病棟の雰囲気になれてきました。そして、少しずつ日々の業務が分かるようになってきたと思います。私が

れるのは、大学時代の先生や友達部活の存在です。友達と話をし、先生に聞いてもらうことで、頑張らなれないけないなという新たな気持ちになることができて、とても励みになります。学生のみなさんには先生や友達との関係、部活のつながりをこれからも大切にして、これからの学生生活を過ごしてもらいたいと思います。今は、患者さんとの会話がうれしかったり、新しい友達ができたりと楽しいこともあり、日々の生活に楽しみを見出しつつ、これからたくさん学んでいけるように頑張りたいと思います。

(すずき のりこ)

勤務している脳外科は、急性期の方から麻痺がありリハビリを行っている方まで様々な症状の患者さんがいて、毎日とても忙しい病棟です。しかし、とてもやりがいのある病棟だと思います。学生の時とは違い多くの患者さんに接するため、一人一人を理解するのは難しいですが、少しでも理解できるように丁寧な関わりを心がけています。

4ヶ月経過した今でもまだまだ不安なことだらけですが、今感じていることを大切にしながら頑張りたいと思います。そして多くの患者さんと接し、出会いを大切にしながらたくさん学んでいきたいと思っています。

(こいたばし ゆみ)

オープン キャンパス 報告!

H19年 7月7日 (13:00~16:00)



1. セッション1

- ・看護学部紹介
- ・ミニセッション ~看護学で学ぶこと・学生生活等~
加藤郁子(応用看護学部)、東泰弘(卒業生)、安保麻希、梅津晶子(4年生)、日向真澄(編入4年生)
- ・入試概要: 志賀先生

2. セッション2

- ・模擬講義
(横田素美先生)

3. セッション3

- ・施設見学
- ・体験コーナー
- ・質問相談コーナー

ミニセッション

総合科学部門 志賀 令明

平成19年度看護学部オープンキャンパスでのミニセッションは、「学部で学ぶこと、学生生活等について」というテーマで行われました。例年ですと、看護学部棟の最も広いN301教室を会場に行われています。そこは260名程度が収容できる教室なのですが、今年度は参加して下さった高校生や父母の方々が300名を超えていたため、急遽座席を増やしての開催でした。教員1名、学部学生3名、大学院生1名の計4名でミニセッションが行われました。最初に、看護学部でのカリキュラムの太筋について説明され、1年次では「看護学の基本」や将来看護師などの医療従事者になったときに必要な、人間や社会を理解するための学習が行われ、学年が進むにつれて、生命科学や社会医学を学び、実習を含みながら、小児、成人、老人など発達段階に沿った看護について学んでいくことが話されました。加えて、障害者看護や家庭看護、ないしは地域での健康増進活動など広い視野に立つて看護や医療について学ぶことが話されました。また助産学専攻は定員の関係上、毎年10名以内と人数が少ないのですが、出産という生命の誕生の場に立ち会う感動といのちの尊さについて体験を交えて報告されました。また編入生からは専門学校と4年生大学の違いについても説明されました。本学部を卒業し、関東と福島県で臨床経験を積みながら大学院に進学している東さんからは、実際に臨床の現場に入って初めて自分のやりたい看護とその方法に気づくというお話がありました。看護学は一つ一つの看護実践の積み重ねによって作り上げられてくる学问です。それぞれのお話しには、それぞれの看護に対するひたむきさが込められており、参加して下さった沢山の高校生のみなさんに感銘を与えるだけではなく、将来の展望を開きつつかけを与えてくれるものになりました。

(しが のりあき)

模擬講義を終えて

基礎看護学部 横田 素美

今年のオープンキャンパスに来学された人数は300名と、例年を大きく上回り、盛況でした。そのため私が担当した模擬講義を受講して下さった方も大変多く、約200名が入れる301講義室はしっかりと埋まり、サテライト室として準備されていた302講義室でモニターを通して受講して下さった方もかなりの数でした。模擬講義では、適切な看護ケアを提供す

るため看護者は対象者の身体面をはじめ精神面、社会面等の状態を的確に把握していること、特に身体面に関しては視診や触診はもとより打診や聴診など、医師しか行わないと思われるようなテクニクを駆使して把握していることを強調しました。看護者がきちんと対象者のからだ身体の状態を捉えていく重要性と面白さ、模擬講義後に実習室で担当した体験コーナーでの関わりも合わせて、伝わってくれたら幸いです。思っています。(下よこた もとみ)



盛況! 体験コーナー

基礎看護学部 工藤 真由美

看護学部でこういったことが学べるの? 実際の講義・演習内容は? など高校生に看護学部を知ってもらおうと学生有志と共に各領域で工夫を凝らした体験コーナーが開かれました。今年の内容は、生体看護部門では「老人体験」というテーマで高齢者の疑似体験、また新生児・乳児人形を使用した「赤ちゃん抱っこ体験」、呼吸法やアロマ

セラピー等取り入れた「リラクゼーション体験」、家族看護部門では「妊婦体験」など妊娠出産のしくみなどを展示。基礎看護部門は「注射・点滴の演習の実際」、「血圧測定」などを行いました。どのコーナーも待ちができるほどの盛況で、高校生の反応は「お年寄りってこんな苦労をしているんだ」、「抱っこも大変、親つてすこい」、「マッサージを家でやってみたい」、「妊婦ってこんな感じ」など新鮮な驚きと、また注射・点滴実演では興味を持って見入っていました。普段何気なく見ている光景を実際に体験することで、看護が対象者として示していることに少しでも興味と理解を示してくれたのではないかと感じています。(くどう まゆみ)





大学・大学院に入学して

看護を志して

1年 竹中 志温



入学して5ヶ月が経ち、様々なことがありました。入学式、新人生歓迎会、90分講義、塾道部入部、テスト、合宿、大会、解剖学実習、アルバイトと教習所を始めたり、ボランティアに参加したりと忙しい日々もありましたが、全てが新鮮で楽しく過ごすことができました。最初は慣れないこともあり不安でしたが、今では自分の生活スタイルもできて毎日が充実しています。

看護学部に進みたいと決めたのは高校1年の夏のことです。ちょうど3年が経ちました。そして今、私は大きな壁にぶち当たっています。「看護とは？」という問いに自分の言葉で答えることができないのです。看護には様々な道があります。看護師、保健師、助産師、養護教諭、大学院進学。看護師の働く場も広がっています。しかし、自分のやりたい「看護」とは何だろうか。漠然と「看護師になる」と思っていました。が、「看護学の基本」の講義を受けたり、先生や先輩の話聞いていたりうちに、今新たに「看護とは？」ということに向き合っています。この4年間でその答えを見つけないです。

(たけなか しおん)

看護学部に入學して

1年 芳賀 卓哉



看護学部に入學してはや5ヶ月が経ち、ようやく大学生活にも慣れてきました。最初は新しい環境に戸惑い、すべてが不安でした。まわりに知らない人はばかり、さらに男子は4人しかいない、大学の講義にはついていけないか、などを落ち着かない状況でした。しかし、先輩方の激しい歓迎を始め、先生方との交流の場を設けてもらったり、新人生歓迎会を催してもらったりして、大学生活への不安は少しずつ消えていきました。今では学部、学年に関係なしに交友関係を築き、部活にも勉強にも熱を注ぎ、とても充実した生活を送っています。



ここでは先輩方や先生方、また医学部との繋がりが強いところが一番の魅力だと思います。講義では看護に欠かせない生物学的ことから、法学、倫理、コミュニケーション論などさまざまな分野を勉強しています。私はこの恵まれた環境で知識を身につけ国家試験の合格を目標に、これからの大学生活を有意義に過ごしていきたいと思っています。(はが たくや)

看護学部に入編して

編入3年 柏木 久美子



編入してからあつという間に6ヶ月が過ぎようとしています。編入の動機は、自分に自信をつけること、そして故郷福島県の現状を学び、専門性をもった看護師として活動したいということでした。大学では学生自らが主体的に学ぶのはもちろんのこと、広く国際的な活動も視野に入れた英語の演習、家族看護学という初めて学ぶ分野など、短大時代には経験できなかったカリキュラムのもと、充実した毎日を送っています。

私は臨床も経験してきますので、これまでの知識や看護観を振り返りながら学びを深めています。今年の編入生は6人と少ないのですが、互いに切磋琢磨しながら夢に向かって進んでいます。新たな仲間ができた喜びとともに、この恵まれた環境の中で学ぶことのできる幸せをかみしめつつ、これからの1年半を大切に過ごしていきたいと思っています。

(かしわき くみこ)

大学院に入學して

大学院 1年 渡邊 照子



看護学校を卒業して10年が経ち、再び学生という立場になるのは、嬉しい様な恥ずかしい様な、複雑な気持ちです。「精神科看護」に携わり、中山先生や大川先生との出会いが私に大きく影響し、臨床と両立し大学院で学ぶきっかけとなりました。入学後は、想像以上に勉強の方は大変で悪戦苦闘中ですが、先輩や同級生の皆様に助けていただき少しずつ前進しています。精神の領域だけでなく、他の領域の方との交流が臨床への新たな発見や学びとなり、充実した時間を過ごしていると実感している毎日です。まだまだ大学院は私にとって未知の領域であり、人生の中で貴重な経験や体験ができる3年間にすると感じています。辛くても楽しいと感じられるように、自分のペースで頑張っていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

(わたなべ てるこ)

基礎看護実習を終えて

2年 正直 勇人



二週間という限られた期間ではあるが、改めて振り返ればとても充実していたと思う。初めて一人の患者さんに受け持たせていただき、技術演習で学んだ

ケアを提供する実習であったが、学ぶことは非常に多かった。日々変化していく患者さんの状態・症状に合わせ、それに適した看護計画を立案実行することの大変さ、思っているようにケアを提供することの困難さ、人間の命を扱うことに対する責任の重さなど、たくさん学ぶことができた。

それと同時に、病室内においての患者さんのプライバシーの低さや、生活環境を見て、病院の現状や抱える問題なども目の当たりにし、考え

させられるものがあつた。主なケアとしては、バイタル測定、全身清拭、陰部洗浄、洗髪、口腔ケア、手浴、足浴などが挙げられるが、自分が行えることは「看護」のほんの一握りにすぎないものであり、未熟さを思いしらされた。

今後は専門的な技術演習も入ってくるため、より一層引き締めて臨み、卒業後は自分に自信の持てる素晴らしい看護師になれるよう努力していきたい。

(しろうじき はやと)

リハビリに伴う 看護師の役割

4年 作道 みちる

右被殻出血

発症から約1ヶ月、左片麻痺の患者さんを受け持たせて頂きました。



リハビリによる排泄の自立が目的でした。患者さんからは「リハビリだけが楽しみだ、がんばらない」と意欲的な発言が聞かれていました。リハビリ中の表情は硬くうつむいていることが多い状態でした。カンファレンスで指導者さんから「出てくることを認める関わりが大

事」というアドバイスを頂きました。患者さんに「上手になりましたね、昨日よりバランスが取れていますよ」と声をかけると、「そつですが」と穏やかな表情になり、涙ぐみました。患者さんは自分の上達を実感できず、焦りや不安の感情を抱いていたのだと感じました。上達を実感できれば自信となり、次も頑張ろうという意欲につながると思います。そのためには看護師の患者さんの変化を捉える観察能力が大事です。少しの変化でも患者さんに伝え喜びを共有することは、患者さんにとって大きな励みになることを学びました。

(つくりみち みちる)

地域実習を通して 学んだこと

4年 三浦 希美

私は、6月に約三週間、三春町保健センターで実習させていただきました。



今回は、実際に地域で行われている事業等に参加させていただくことができ、とても充実した実習になりました。また、保健センターのスタッフの方々もお忙しい中、さまざまなアドバイスや説明をしてくださり、実習前にたっていた目標以上の学びを得ることができました。

住民が健康な生活を送るために保健師が行っている活動は、本当に様々です。しかし、それは保健師からの一方的なものではありません。例えば、育児サークルなど、住民による自主グループ活動に対する援助については、今、住民はどんな支援を必要としているかを、しっかりと考えることが重要であると思います。自主グループの自主性を高める援助について、学び、考えることができました。

これから、保健師に必要な知識や技術を学ぶことは勿論のこと、今回お世話になったスタッフの方々のように、住民に信頼される保健師になれるような人間性も身につけていきたいと思えます。(みづら のぞみ)

家族看護学実習を終えて

4年 栢澤 愛



私は、家族看護学実習で訪問看護ステーションで実習をするまでは、在宅医療・在宅介護について「家族への負担やストレスが多くて大変である」というイメージを抱いていた。実際に、在宅介護

が行われている家庭を訪問した際には、完全に寝たきりの療養者の24時間体制の介護により介護者に疲労が蓄積していたり、在宅で療養者を受け入れることで起こる微妙な家族関係の変化(すれ違い、家族一人に介護を任せきり、家族一人一人の介護観の違い)などがあり、在宅介護が

家族に与える負担を再認識した。しかし、「最後まで妻の面倒は自分で見たい」「育ててもらった親のお世話をするのは当たり前」等の介護者の話を聞き、在宅介護は家族に与える負担も大きい、それ以上に療養者に対する思いの再確認や家族の絆

を深めるためのきっかけになることを学んだ。

今回の実習で訪問させていたいただいたケースでは、療養者と介護者、家族との関係性が良好なケースだった。しかしながら、在宅介護で家族介護者が抱えるプレッシャーは大きく、身体的にも精神的にも疲労が蓄積され、生活や心に余裕を失ってしまっている家庭も多くあると思う。そのような時に、療養者だけでなく家族や介護者の方々も含めたケアを行い、家族全体のQOLの維持・向上の支援ができるような看護者になりたいと感じた。(とちざわ あい)

実習を通して学んだこと

研究・活動報告

がん看護研究会は、生態看護学部門荒川唱子教授を代表の下に1998年に発足し、福島県内の医療・教育機関でがん看護に携わる約



がん看護研究会の紹介

生態看護学部門 菅野 久美

40名が参加しています。主な活動として、2カ月に1度の事例検討会、また話題や関心のあ

るテーマについて公開講演会/セミナーを企画しています。今年度も7/28(土)に第9回めの公開シンポジウムを開催しています。「外来化学療法看護の現状と問題点」というテーマ



ホームページもご覧下さい

→ <http://www.fmu.ac.jp/home/fscn/>

リエゾン活動をはじめ

応用看護学部門 加藤 郁子



5月から兼務辞令をいただき、附属病院でのリエゾン活動を開始し、いろいろな場所にお邪魔

させていただいています。3月まで病院のスタッフとして働いていた私ですが、病棟に入るときは緊張します。ドキドキする気持ちを抑えて「こんにちは、リエゾン活動をしている加藤です」と明るく話め所に入っていくように心がけています。

今はスタッフに紹介された患者さんやその家族からお話を聞かせていただくことが多い状況です。一言一言話され、沈黙が続くときや、患者さんが1時間以上話し続けるときなど状況は様々です。そのような方々は病気や治療により不安、ストレス、苦痛を感じています。話を聴くなか

ICN (国際看護師協会)

学術集会参加報告

ケアシステム開発部門 野田 智子



5月30日から6月1日パシフィック横浜でICN学術集会

で患者さんが何を感じ考えているのかを受け止めることができ、その思いを病棟や外来で行われるケアに結び付けられるように、スタッフの方々と一緒に考えていきたいと思います。

会が開催されました。日本での開催は、1997年の東京大会以来30年ぶりのことで、加盟国129カ国中121カ国から3900人の看護職が参加し、「最前線の看護者たち... 予期せぬ事態に立ち向かう」をテーマに、災害や感染症、看護の実践環境に関する分科会やシンポジウムが開かれました。災害時はコミュニケーションが難しくなったり、災害後も中長期的に医療・保健の問題が残ることが指摘されています。日本では、阪神淡路大震災を教訓に災害時のシステムが作られつつあり、7月の中越沖地震でも災害支援ナースが多数派遣されましたが、災害時の看護教育については今後の課題となっています。また、看護学生ネットワークも開かれ、学生時代から情報に関与し、専門的課題に取り組む世界規模の議論の場がもたらされました。今回は2009年6月南アフリカのダーバンで開催予定です。

(のだ ともこ)

看護学部カレンダー

- 10月24日(水) 解剖慰霊祭(1年次)
- 10月27日(土) 光ヶ丘祭
- 10月28日(日)
- 11月24日(土) 特別選抜入学試験
- 12月17日(月) 冬季休業
- 1月4日(金)
- 1月15日(火) 後期試験(4年次・編入4年次)
- 1月26日(土)
- 1月19日(土) 大学入試センター試験
- 1月20日(日)
- 2月12日(火) 後期試験(1年次・2年次)
- 2月22日(金)
- 2月12日(火) 後期試験(編入3年次)
- 2月29日(金)
- 2月25日(月) 一般選抜試験【前期日程】
- 2月26日(火)
- 2月25日(月) 後期試験(3年次)
- 2月29日(金)
- 3月12日(水) 一般選抜試験【後期日程】
- 3月17日(月) 春季休業
- 3月25日(火) 学位記授与式

編集後記

長い梅雨が明けたとたん猛暑となり、全国で熱中症のニュースが相次ぎました。温暖化の不安が強まる一方、ニュースをよく見ると数十年前にも高い気温の記録があります。報道に煽られず、心穏やかに過ごしたいと思いつつも、クーラーのない部屋での昼寝は不健康以外のなにものでもなく... 温暖化へのうらめしさがひとときわ募った夏でした。看護

学部は10周年目を迎えて節目の年となり、新カリキュラムを検討中です。夏は終わっても看護学部の熱気はしばらく続きそうです。

編集委員

- | | |
|-----------|-------|
| 委員長 本多たかし | 田中 克枝 |
| 林 正幸 | 清水 昌美 |
| 横田 素美 | 飯塚 麻紀 |
| 工藤真由美 | 野田 智子 |
| | 後藤 千恵 |